

率先避難を再考する

森本翔太¹・及川康¹

¹東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科

1. はじめに

本稿は、避難三原則の第三原則「率先避難者たれ」について再考を試みるものである。再考とは言うものの、迅速な避難が必要なクリティカルな場面において自ら率先して避難することの重要性を説くこの原則の効果と意義について、異論を唱えるものでは全く無い。論点としたいのは、率先避難者となることの難しさである。この難しさを超えるには、単に「率先避難者たれ」と唱えるだけではじゅうぶんではなく、その難しさを幾ばくかでも軽減し得る方策と併せることでより大きな効果を発揮し得るようになると思われるのである。その方策は如何なる要件を備えているべきなのか検討を加えることが本稿の主旨である。

2. 率先避難の難しさと多元的無知

率先避難の難しさには「恥かしさ」が関係しているように思われる。恥かしいと感じないのであれば問題は少ないのであろうが、しかし実際には多くの人が恥かしいと感じるからこそあえて第三原則として唱える必然性があったのだらうと解される。

ここでいう恥かしさとは、もし自分が率先して避難した場合に想定される「率先して避難した自分に対して周囲の人々が持つであろう印象の内容」が、概してネガティブな内容（たとえば「自分の身の安全を優先して考える自己中心的で薄情な奴だ」とか、「大げさでお騒がせな奴だ」とか、「心配症で小心者だ」など）であることに起因したものであるといえる。そのようなネガティブな印象を周囲から抱かれてしまうことをできれば避けたいと思うがあまり、率先して避難することを躊躇して控え、結果的に誰も避難しないという負の均衡状態に陥ってしまう事態などはじゅうぶんにあることである。この事態を座して待つのではなく、負の均衡状態の打開策として唱えられたものが第三原則である。

しかし、率先して避難した自分に対して周囲の多くの人がネガティブな印象を持つであろうとの見立てそれ自体が、もしも実態と符合せず乖離しているとするならば、これはいわゆる「多元的無知」(Allport, 1924; 神, 2009)の状態であると括ることができる。多元的無知とは「多くの人が『多くの人が“とあること”を信じている』と信じているが、しかしその“とあること”を信じている人は実は少ない」という事態のことを指す。つまり、率先して避難しようとする湧き上がって来て、そしてその避難を阻む要因となってしまうかねない「恥かしさ」

とは、実は単なる「取り越し苦労」に過ぎなかったかもしれない、という見立てである。この見立てが事実か否かを確認することを本稿の論点①としたい。

そのうえで、もしもそのような見立てが事実なら、たとえ率先避難しても周囲からネガティブな印象を持たれることなど杞憂に過ぎないという事実、すなわち、「恥ずかしさ」を感じて避難を躊躇する必要など実は無いのだという事実それ自体を知ること“だけ”で、率先避難を阻む要因は幾ばくかでも軽減されるのではないかとの見通しも、じゅうぶん可能なのではなかろうかと思われるのである。この点を本稿の論点②としたい。

3. 検証方法

表1および表2にその実施概要を示す調査にて論点①②を検証する。調査の回答者には表2(2)に示すような河川洪水の避難状況を提示し、そのまま自宅に留まるなら自身に深刻な危険が及ぶ状況を想起してもらい、そのもとの[率先避難意向1]を回答してもらった。その後、自分が率先避難した場合に周囲からどのように思われると思うか(多元的無知状態の確認a)、周囲の誰かが率先避難した場合にその人のことを自身はどのように感じると思うか(多元的無知状態の確認b)、の両面についてそれぞれ3通りの表現のもとで回答を要請した。その後、表2(3)に示す周知文章を提示し、それを熟読してから再度、[率先避難意向2]の回答を要請した。率先避難意向の回答方法や状況想定などの条件はすべて周知文章の提示前後で完全に同一である。

仮想的な状況下ゆえ、回答の絶対的な数値の高低に対して積極的な解釈を加えることの意味は少ない。本稿の論点はそこではなく、あくまでも、多元的無知状態の確認の間であるaとbとの間に相対的な有意差が見出されるのか否か、そして、周知の前後における率先避難意向に相対的な有意差が見出されるのか否か、である。

4. 検証結果

論点①に関する設問の集計結果を図1に示す。これによれば、設問で掲げた3つのネガティブな印象は、率先避難した自分に対して周囲の人々が持つだろうという予想(多元的無知状態の確認a)よりも、率先避難した他者に対して自分が持つだろうという予想(多元的無知状態の確認b)のほうが、いずれも有意に下回っていることが確認される。すなわち、率先避難に関して人々が抱きがちな「恥ずかしさ」は、杞憂であり、多元的無知状態に陥っている可能性が高いといえよう。

表1 調査実施概要

日時	2023年10月12日~18日					
方法	インターネット調査 (対象は日本全国)					
回収数	性別・年齢別で均等割付(各セル 50 サンプル)で実施したが、回収数には下記の偏りがある。括弧内は有効回答者数。					
		男	女	他	計	
	年齢	18-39	63 (48)	65 (61)	0 (0)	128 (109)
		40-59	82 (75)	61 (61)	0 (0)	143 (136)
	60-99	79 (79)	73 (72)	1 (1)	153 (152)	
	計	224 (202)	199 (194)	1 (1)	424 (397)	

表2 調査の主な手順

(1)	(基本属性などの設問群のなかのひとつとして)
	[周囲の目を気にする/気にしない] 普段の生活のなかで、周りからの目がとても気になる (1:まったくあてはまらない~7:とてもあてはまる)
(2)	あなたが暮らす地域には河川Aが流れています。この河川Aが氾濫した場合、木造平屋建ての自宅には激流が押し寄せて深刻な危険が及ぶ可能性があります。あなたはいま自宅にいます。そこで、豪雨が続きな、地域の防災無線から「河川Aの水位が上昇中で危険な状態にある」ことを伝え聞いたとします。
	[率先避難意向 1] 周りの様子を確認した結果、誰も避難していなかったならば、あなたはどうしますか? (1:避難せずに自宅にいると思う~9:率先して避難すると思う)
	[多元的無知状態の確認 a] 自分が率先避難した場合、周囲から★だと思われると思いますか? (1:まったくそう思わない~7:とてもそう思う) a1) ★:心配性で小心者だ a2) ★:大げさでお騒がせな奴だ a3) ★:自己中心的で薄情な奴だ
(3)	[多元的無知状態の確認 b] 周囲の誰かが率先避難した場合、その人のことを★だと感じると感じますか? (1:まったくそう思わない~7:とてもそう思う) b1) ★:心配性で小心者だ b2) ★:大げさでお騒がせな奴だ b3) ★:自己中心的で薄情な奴だ
	ある大学が実施した社会調査では、「災害時に我先に率先して避難する人のことを『大袈裟な人・お騒がせな人』だとか『心配性な人・小心者』だとか『自己中心的な人』だなどと思いますか?」というアンケート項目に対する回答の多くは「そうは思わない」が大半を占めたそうです。つまり、災害時にたとえ自分自身が我先に率先して避難したとしても、周りの人たちからそのように思われてしまう可能性というものはとても低いということです。ともすると、災害時に自分が我先に率先して避難すると、周りの人たちから「大袈裟な人・お騒がせな人」だとか「心配性な人・小心者」だとか「自己中心的な人」だなどと思われてしまうのではないかと心配する人も多いのではないかと思われますが、しかし実際には、そのような心配の多くは「無用」あるいは「取り越し苦労に過ぎない」と言えるのではないのでしょうか。
(4)	[率先避難意向 2] (上記②と同じ状況想定下で[率先避難意向 1]と同じ内容)

論点②に関する集計結果を図2に示す。これによると、周囲の目を気にする人の率先避難意向は、多元的無知状態の周知文章の提示前では大幅に低い。しかし、提示後においてそれは、周囲の目を気にしない人の率先避難意向と相違ない値まで大幅に上昇している。すなわち、論

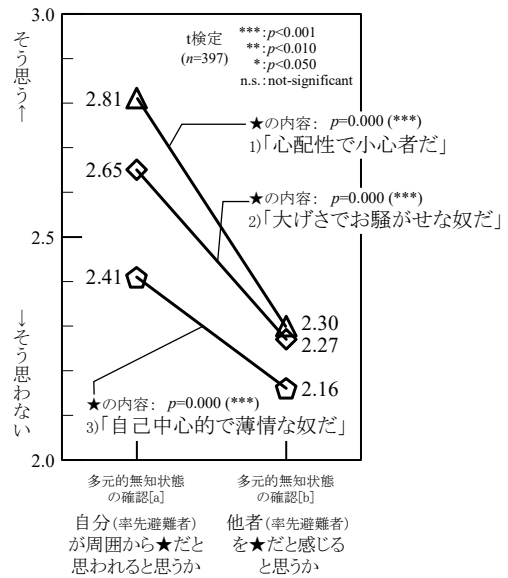


図1 多元的無知状態の確認

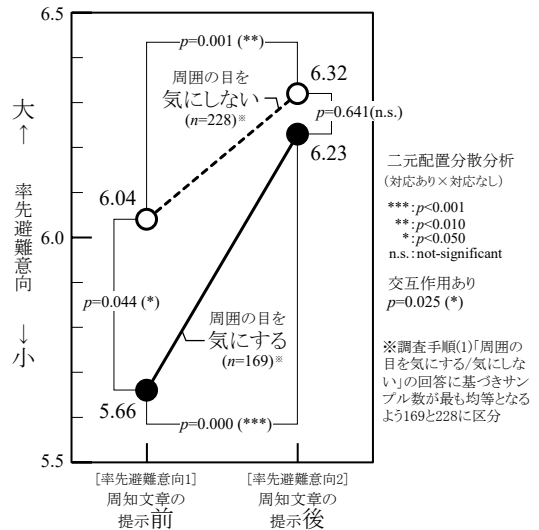


図2 提示による率先避難意向の変化

点②として掲げたように、率先避難に関して人々が抱く「恥ずかしさ」は杞憂であることを知る“だけ”で率先避難者が増加する可能性が示唆されたといえよう。

なお、本稿で焦点を当てた「恥ずかしさ」はある種の集団心理の特性に基づくものであるなら、集団心理が希薄で周囲の目を気にしない人が多い集団においては、本稿で検証したような工夫(=周知)の意義もまた希薄なものとなるだろう。しかし、そのような集団では同時に、率先避難者の存在による周囲への同調効果(避難誘発効果)もまた希薄なものとなる可能性を想像させるが、この点に関しては今後の更なる検証や考察を待ちたい。

参考文献

Allport, F. H. (1924): *Social Psychology*. Boston: Houghton Mifflin.
 神信人(2009), 集会的無知, 日本社会心理学会(編), 社会心理学辞典, 丸善出版, pp.300-301.